

## 6. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その25)】

### 真っ白なアメフラシ

#### アルビノの春の使者

2005年4月初旬に、東白浜の綱不知湾の岸壁でたいへん珍しいアメフラシを見つけた。アメフラシの体色は通常、黒褐色の地に白いまだら模様である。ところが、今回発見した個体は今まで見てきたアメフラシの中で最も白かった。体全体のどこにも黒色部が見当たらないほど完璧の白だった。水深1mほどの所をゆったりと岸壁に沿ってはってい

た。こちらに上がってこないかとしばらく観察していたが、餌を十分に食べて体が重くなったのか、海底に転がり落ちてしまった。

### 春の使者

アメフラシ自体は田辺湾周辺海域に普通にいる種である。日本中のあちらこちらで見掛けられる。アメフラシは最大で体長 50cm ほどになる。ウミウシ類最大級で、形がウサギに似ていることから、英名では「海のウサギ」と呼ばれている。春の使者でもあり、アオサ類などの海藻が岸壁や岩礁に繁茂する季節の訪れとともに、毎年決まって出現する。アメフラシは日本をはじめ、台湾や韓国、中国にまで広く分布しているが、このように体全体が真っ白い個体の報告例はほとんどないと思われる。2000 年に著者が白浜町の湯崎漁港や瀬戸漁港で発見し、報告した個体もこれほど白くなかった。アルビノ個体とは逆に、真っ黒な個体もある。このような変わり種も報告しているので、ご覧頂きたい。

### 色彩変異

上記のアメフラシの色彩変異の報告中、白色個体は黒色部分が全体の 20% 以下、黒色個体は黒い部分が 85% 以上占めるものと便宜的に定義した。湯崎漁港でアメフラシが大量に出現した 2000 年 4 月 13 日での 3 者の割合は次のようだった。白色型が 11%、黒色型が 56%。残りが普通型だった。どうやら、アメフラシの体色は、田辺湾周辺海域ではとりわけ変異が大きいようだ。この色彩変異が遺伝的なものなのか、環境要因によるのか、今後の研究課題として確かめねばならない。



図 珍しい真っ白いアメフラシ